

安全だより No.1

宮代町シルバー人材センター
2022年(令和4年)06月02日
安全適正就業委員会

会員の皆様には平素より安全作業を意識して、仕事に勤しんでいることと思います。
このたび、安全に関する情報や実際の事故例等の報告をすることで、事故防止と安全作業の徹底を図り、自分や仲間も事故を起こさない、起こさせないことを目的として、この「安全だより」を作成しました。

安全は自分の問題として取り組む、「安全=自己管理」という意識を持つことがまず大切です

「安全就業の心得」

(全国シルバー人材センター事業協会パンフより)

1. 日頃から健康管理に努めよう。
2. 仕事の前日は十分に睡眠をとろう。
3. 服装・履物・保護具は作業に適したものを着用しよう。
4. 作業前には準備体操をしよう。
5. 使用前に器具類・保護具は必ず点検しよう
6. 作業前には準備体操をしよう。
7. 使用前に器具類・保護具は必ず点検しよう。
8. 加齢による身体機能低下を認識し無理をしない。
9. 安全第一を心がけよう。
10. お互いの合図・連絡を正確にしよう。
11. 就業の場は常に整理整頓を心がけよう。
12. 通勤時に交通事故に遭わぬように注意しよう。

事故事例 2 件

(1) 死亡事故

(事故概要)

上里町シルバー人材センター
死亡者：男性 73歳
発 生：令和3年9月



事故の自走機と同じモデル。全長：約 2m
全幅及び全高：約 1m
重量：約 300 kg

(事故内容)

遊水地グラウンドの傾斜角 20 度の法面の草を「バロネスHMB80 ハンマーナイフモア」で草刈りを行っていた。100m 隣で作業中の仲間が異変に気づき駆け付けたところ作業者が法面から 50 cm 下のグラウンド面で機械の下敷きになっていた。作業者はヘルメットを付けていなかった。

(事故の発生状況の推測)

1. 法面を下から刈り出し上部まで行ったが行き止まりで回転できず、走行クラッチを切りバックした。
2. 機械の自重でバックに勢いがついた。
3. 制止しようとしてさらにクラッチレバーを握ってしまった。
4. 支えきれずに約 50cm の段差のある部分からグラウンド面に落下、体の上に機械が落ちた。

(事故の原因と再発防止策)

1. 上部が行き止まりで左右に曲がれなかった。
⇒作業前の下見で安全作業の確認をする。
2. 後退のため、両側の走行クラッチを切った。
⇒後退は自分の方へ機械が進むので特に注意
3. ブレーキと間違えて、走行クラッチを握った。
⇒ブレーキレバーに赤い塗料等で「緊急停止」の表示を目立つようにする。
4. ヘルメットの未着用。
⇒ヘルメットは必ず着用する。
5. 傾斜地で、段差もあった。
⇒傾斜地での自走式草刈り機の使用は特に注意。
傾斜角度 20 度以下にして作業を行なう。

(2) 重傷事故

宮代町シルバー人材センター

受傷者：男性 69歳

発生日：令和4年2月

怪我の程度：大腿部骨折

(事故の概要)

自転車で早朝出勤時、前夜の降雪が横断歩道にあり、その上を渡っていたところ、自転車が滑って転倒し大腿部を骨折した。

救急車で病院に搬送され、翌日手術を受けた。

入院は1.5カ月。

⇒今後、雪が降って残雪がある場合は

自転車通勤は避けるようにする。

降雪時は徒歩でも滑りやすいので、滑りにくい靴で歩幅も小さくして慎重に歩くことを心掛ける。

降雪時は自動車も同様に滑りやすいので、

周囲に十分注意を払い、交通事故に遭わないように注意する。

◎今号のトピックス

今回は環境省の資料に基づき、

熱中症について特集します。

近年、地球温暖化等の気象変動により、年々気温が高くなり、気象庁から、今年の夏も昨年に増して、高温化する長期予報が出されています。

このような状況下、正しく熱中症を理解した上で対応して頂きたいと考えます。

[熱中症とは]

人間の体は**高温多湿下**では、自律神経が働いて、末梢血管を拡大し皮膚の血流を増大させる、或いは発汗させることで体温を下げます。

しかし高温多湿環境に長くとると、発汗作用で水分やナトリウム等の塩分が減少し、体温が上昇し脳や内臓が高温にさらされることで発症する障害の総称で、重篤な場合は死に至る可能性があります。

[熱中症の症状]

症状としては右側に列記してあるように①軽症

②中等症 ③重症があります。

当人が気づかない場合もありますので、周囲の方も注意を払うことが大切です。

1.軽症：めまい、立ちくらみ、あくび、大量の汗、筋肉痛、こむら返り。意識障害は起きていない。

「対応」⇒ 応急処置と見守り。

2.中等症：頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感、集中力や判断力の低下。

「対応」⇒ 医療機関への搬送。

3.重症：高体温及び意識障害、発汗がない。

痙攣、肝障害、腎障害も併せて起こり

最悪の場合は早期に死亡する場合もある。

「対応」⇒ 医療機関に緊急移搬送、入院加療。

※《緊急搬送の必要性の判断ポイント》

・意識がしっかりしているか？

呼びかけに反応するか？

・水を自分で飲めるか？

(水を持たせ、自分で飲めるか確認)

[熱中症が起こりやすい条件]

・急に暑くなる日や、継続する暑さ。

・梅雨入り前の5月頃から発生し、

7月下旬から8月上旬に多発。

人間が上手に発汗できるようになるには、暑さへの慣れが必要です。

それが「暑熱順化」です。下記の項目参照。

暑い日が続くと、体が次第に慣れて、

暑さに強くなります。循環血液量が増加し、汗のかき始めも早くなります。

そのため同一体温に対する汗の量も増え、

より効果的に体温調整ができるようになり、熱中症の危険性も少なくなります

※【暑熱順化】

暑熱順化とは体が暑さに慣れることです。

暑熱順化すると低い体温でも汗をかきやすくなり

汗の量が増え、血流も増加して熱が逃げやすくなり体温の上昇を防ぎます。

「やや暑い環境下」で「ややきつい」と感じる

速さで、毎日30分程度のウォーキング等の運動を

継続すると数日後から約2週間程度で暑熱順化が得られます。

※熱中症防止のために！

[各人の体力や体調を考慮しよう]

1. 体力に見合った強度の仕事であるか。
2. 暑熱順化しているか。
3. 熱中症の既往歴はないか。
4. 高血圧等の慢性疾患と薬の服用はないか。
5. 寝不足ではないか。
6. 過度のアルコール摂取はないか。
7. 二日酔いではないか。
8. 朝食は食べたか。
9. 風邪や体調不良ではないか。
10. 脱水状態ではないか。

[体の蓄熱を避ける対応・暑さへの対応]

1. 通気性のよい、吸湿性・速乾性の衣類を着用する。

「空調服」の使用※下記画像参照

2. 保冷材・氷・冷たいタオル等で体を冷やす。
3. こまめに水分を補給する。
4. 休憩は30分に一回以上とるようにする。

※空調服

夏場の衣服内環境を改善することを
目的として電動ファン内蔵の上着を指す



作業着に小型ファンが内蔵されていて、電池でファンを駆動させ、外気を作業着内に送り込んで汗を気化させて体温を下げます。ベストや長袖等種類があります。

価格も5千円程度から各種あるようです。

上記の画像はトクホン工場で作業をするシルバーのメンバーが着用しているもので、大変効果があるとのこと。

[もし熱中症の症状が見られたら]

1. まずは涼しい場所へ移動する。
2. 衣服(衣類)を緩める。
3. スポーツドリンク・食塩を含んだ水などを自分で持たせ飲ませる。
飲めない場合、重症の可能性大。
4. 体に水を掛ける或いは濡れタオル等を当てて扇いで、体を冷やす。
5. [熱中症の症状]に記載したどの症状に当たるを確認する。
症状によっては救急車を手配する。

※汗を大量にかく場合には、塩分の補給が必要です。

0.1～0.2%程度の食塩水(水1ℓに1～2gの食塩)や、飲み物の場合、ナトリウム量は水100ml当たり40～80mgのものが適当です。

経口保水剤・スポーツ飲料なども有効ですが、スポーツ飲料類には糖類が多く含まれている物もあるので糖類制限を受けている人は注意が必要です。

※水分補給に冷たい水が良い理由は、

①冷たい水は深部体温を下げる効果がある。

②冷水は胃に留まる時間が短く、水を吸収する器官の小腸に速やかに移動するためです。

以上熱中症について説明をしました。

皆様がこれから迎える暑い夏を乗り切るための一助となることを願っています。

緊急搬送先や緊急連絡先等の住所や電話番号も携帯電話などに登録しておくことも大切です。

「ヒヤリ・ハット」の経験談を募集します！

～ 昨年、宮代町シルバー人材センターで人身事故が発生しました ～

高所作業中に脚立から落下したものです。30 日の入院となりました。状況からみて死亡に繋がっても不思議ではない重大事故でした。

表1 重篤事故の年度別発生状況 (重篤事故＝死亡又は6カ月以上の入院)

区分 年度	就業中			就業途上			総件数		
	死亡	入院	小計	死亡	入院	小計	死亡	入院	合計
27年度	15(1)	5(0)	20(1)	4(3)	5(3)	9(6)	19(4)	10(3)	29(7)
28年度	15(4)	6(1)	21(5)	4(3)	3(1)	7(4)	19(7)	9(2)	28(9)
29年度	22(0)	10(0)	32(0)	11(3)	3(1)	14(4)	33(3)	13(1)	46(4)
30年度	29(3)	8(1)	37(4)	14(4)	2(0)	16(4)	43(7)	10(1)	53(8)
元年度	12(2)	9(3)	21(5)	2(0)	10(1)	16(1)	18(2)	19(4)	37(6)
2年度	9(0)	10(0)	19(0)	6(3)	1(1)	7(4)	15(3)	11(1)	26(4)

左の表は全国のシルバー人材センター内での重大事故の一覧です。

令和元年(2019年)で18名の方が亡くなっています。

※1 ()の数字は女性で内数
 ※2 令和2年度は、11月末までの件数である。

～～ヒヤリ・ハット集を作ります～～

アメリカの「ハインリッヒ」が、重大事故の裏には、事故には至らなかった「ヒヤッとした」「ハッとした」事例が300件あると主張しています。

「1 : 29 : 300」これを「ハインリッヒの法則」といいます。

車の運転や一般作業中に「ヒヤッとした」「ハッとした」経験は誰にもあると思います。

あなたが経験した「ヒヤリ・ハット」は貴重な経験です。この経験を集めて「ヒヤリ・ハット集」を作り、誰もが閲覧できるようにします。

(個人情報公開されません)

安全適正就業委員会では、会員の皆様が経験された「ヒヤリ・ハット」を集め、見えない危険要因を発掘し、安全作業をしていただく指針を作成したいと考えております。(委員長 梅澤俊雄)

※報告書は事務所に問合せてください(HPにも掲載しています)

